

## 榊田 和美 議員

(一問一答方式)



- ①奨学金返還支援制度について
- ②教育行政について
- ③防災・減災対策について
- ④人と動物の共生について

### 不登校生徒・児童への支援について

**問** 不登校児童生徒への支援には、将来、社会的自立につながる支援策が重要である。国が取りまとめた「COCOLOプラン」では自宅をはじめオンライン指導などの成果も学習成績に反映することで、高校進学への支援を図るとされているが、本市での状況・取組はどうか。

**答** 市内の各学校では一人一台のタブレット端末を使用し、学習支援として活用しています。このタブレット等の活用については、現時点で小学3年生以上は常時持ち帰りを基本としており、教職員はあらゆる場面での活用を考えています。不登校児童生徒に対する支援としては、学校に来られない場合などは自宅から、あるいは、教室に入れない場合は別室から教室とタブレット端末を介して結び、気持ちが学校から離れないよう対応しています。

また、多様な学びの考え方から、民間フリースクール等でオンライン学習している児童生徒もいますが、在籍校の校長がフリースクールと該当児童生徒の学習状況について情報交換できれば、学校に出席したと認めるようにしています。

しかし、オンラインやフリースクールで学習した成果をどのように成績に反映させるかについては多くの課題があり、各学校で検討をしています。

### 奨学金貸与枠の拡充について

**問** 令和6年度から月額貸与に加え、入学準備金として新たな貸与枠が示されているが、内容はどのようなものか。また、他自治体では地域の実情を加味した奨学金制度も見られるが、本市でもそうした支援の検討はされないか。

**答** 高等学校・高等専門学校奨学生は現在の月額貸与1万8,000円に加え、希望者に対し入学時に10

万円、大学・短期大学・専門学校奨学生については月額3万円に加え、希望者に対し入学時30万円をそれぞれ無利子で貸与するもので、進学時に必要となる経費の一助になると考えています。

また、実情に合った支援への取組としては、現在実施している出産世帯の経済的負担を軽減するための奨学金返金の一部補助や、農業分野では愛媛大学社会共創学部特別コースに進学する生徒に対して奨学金制度を設けています。

また、市立大洲病院に就職する薬剤師に対する奨学金の返還支援助成金の交付制度を設けるなど、各担当部署にて独自の奨学金返済などの支援にも取り組んでいます。

### 防災・減災対策について

**問** 南海トラフ大震災など大きな災害時に備え、食料品、薬品、飲料水といった生活物資の調達として企業などとの協定を進めるべきと考える。また、市民からのSNSを活用した災害箇所の通報システム導入により、迅速な対応も可能と考えるが、いかがか。

**答** 食料品や薬品、生活用品に係る協定については、災害時に必要となる物資等が安定供給されるよう、市内の大手スーパーやホームセンター等と協定を締結し、また、災害時の医薬品等78品目の備蓄については、愛媛県薬剤師会大洲支部と委託契約を締結して、備蓄医薬品の保管と管理を依頼しています。

このように、医薬品等については備蓄管理をしていますが、大規模災害時には想定以上の医薬品等が必要となることも懸念されるため、今後はドラッグストアとの協定についても検討していきたいと考えています。

SNSを活用した市民からの通報システム導入に係る手法の一つとしては、10月3日より愛媛県と県下16市町で共同利用を開始したえひめ電子申請システムの活用が考えられます。このシステムのサイトにアクセスし、フォームに従ってスマートフォンを操作することで、現地の撮影写真や位置情報により、いつでもどこでも通報が可能になるものです。これらの活用についても今後検討を進めていきます。